



年 組 名前

道新で ワークシート

大人のやりくり まず教えて

お年玉で買い物する時に
親子で確認すること

本当に欲しいのか

家にある物で工夫
はできないのか

持っている物で
似た物はないか

ずっと大切に
使えるのか



※横井さんへの取材を基に作成

今年のお正月も子どもたちにとって、大きな楽しみだったのはお年玉。両親だけでなく祖父母や親戚からもらうケースもあって、小学校低学年で4人に1人は総額1万円という調査結果もある。たまたまお年玉をどう扱うか、子どもがお金の大切さを学ぶきっかけにできないだろうか。

(編集委員 安宅秀之)

日銀などでつくる金融広報中央委員会が2016年にまとめた「子どものくらしとお金に関する調査」に

よると、お年玉の総額は小学1、2年生で「1万円くらい」が24・0%と最多。3年生～6年生は「1万円以上2万円未満」が約3割を占め、次いで「2万円以上3万円未満」が2割を超えている。

子どもの金銭教育に詳しい札幌のファイナンシャルプランナーの横井規子さんは、「まずは大人たちが大切なお金をやりくりしてお年玉として渡してくれたことを、わかりやすく教えて」と提案する。祖父母には「何

お金の大切さ お年玉で

子ども名義の口座開設 ■ 欲しい物 親子で確認を

に使ったのか、手紙を書いて改めて感謝を伝えると喜ばれるし、子どもに人や物を大事にする心が育つ」という。

住信SBIネット銀行が昨年12月に顧客を対象にまとめた意識調査によると、子どものお年玉は「親が全て管理する」が44・9%と約半数。横井さんは「子どもが小学校低学年までは、親が管理しているのでは。ただし、将来の進学や部活動、夢をかなえるためなどの理由を話すことが必要」と強調する。

お年玉を親が管理する際でも、子ども名義の口座をつくることを勧める。「金融機関にお金を預ける意味やメリットを伝えるいい機会になる。自分で現金自動預払機(ATM)を操作して入金するようになると残高の数字が増えていく楽しさを感じて、お金を使う時によく考えるようになるのでは」と説明する。

一方、子どもにとってお年玉は、まとまったお金を手にする数少ない機会でもあり、「どうしても欲しい物があるなら、一つだけ買わせてもいいのでは」と横井さん。小遣い制で子どもが貯金している家庭は「貯金では欲しい物の価格に届かない分の補填にお年玉を利用する使い方もあります」と助言する。

「家にある物で工夫できないか」「ずっと大切に使えるのか」などを、親子で確認し合うのが肝心という。その上で、実際に買う場合も「チラシを見たり、いくつかの店に行ったりして、同じ物でも店によって値段が違うことや、リサイクルショップを活用して物や環境を大事にすることなどを学んでほしい」とアドバイスする。

「家にある物で工夫できないか」「ずっと大切に使えるのか」などを、親子で確認し合うのが肝心という。その上で、実際に買う場合も「チラシを見たり、いくつかの店に行ったりして、同じ物でも店によって値段が違うことや、リサイクルショップを活用して物や環境を大事にすることなどを学んでほしい」とアドバイスする。

「家にある物で工夫できないか」「ずっと大切に使えるのか」などを、親子で確認し合うのが肝心という。その上で、実際に買う場合も「チラシを見たり、いくつかの店に行ったりして、同じ物でも店によって値段が違うことや、リサイクルショップを活用して物や環境を大事にすることなどを学んでほしい」とアドバイスする。

2020年1月10日(金) 朝刊 全道遅版 生活・くらし総合12P (記事は再編集しています)

①「お金の大切さ お年玉で」という見出しにはどのような意味が込められていますか。リード文から一文で探し、初めの五字を書き抜きなさい。

□ □ □ □ □

② _____ 線「調査結果」とありますが、調査結果はいつだれがまとめたものですか。本文中から書き抜きなさい。

いつ :

誰が :